

# 津島のこと貴方はどれだけ知っていますか？ 津島の歴史入門



問①この料理は津島名物の重箱うどんです。○か×か。

津島市立南小 浅井 厚視

回答① 答えは【 】

重箱の中にうどんが入り、その上にだし巻き、湯葉、エビ、地どり、しいたけ、ホウレンソウなどの具がびっしりのっているうどん料理です。まるい津島麩も入っていました。津島麩は「吾妻屋万蔵」が作りだした津島名物の丸麩です。



問② このお饅頭は津島名物「大福饅頭」です。  
○か×か。

回答② 答えは【 】。柿屋饅頭。柿屋とは尾張木綿（佐織縞）の流行していた柄のこと。柿屋組は尾張木綿の組合。二七翁塚本源三郎が名付けました。

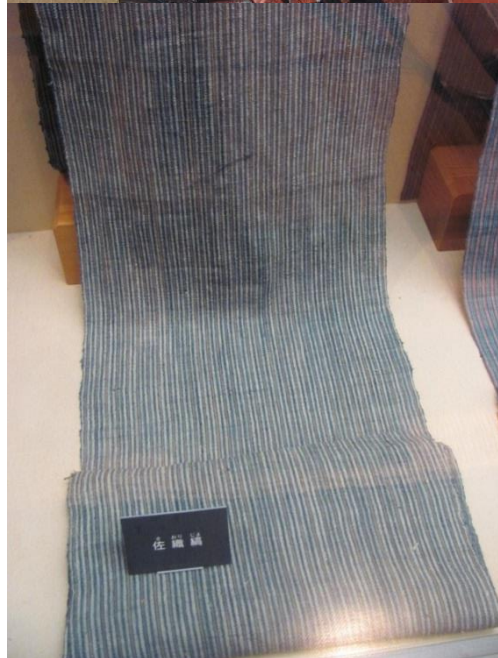


塚本源三郎邸は「近江商人の里・八年庵」として現存。東近江市)津島の天王川公園に桜150本を植樹。『柿屋詩存』の著作。



問③ 蛭間という地名は、水田やあぜ道に生えたノビル（野蒜）。○か×か。

# 説明 ちなみに 尾張木綿とは・・



□ 佐織織

◆ 起源

ア 新居屋起源説

「窮民を佐けるために織らしめし」 (山田恭致による解説書)

イ 佐折起源説

「海東郡北端佐折村の在来の綿、結城織に倣ひて織りだしを初めとす」 『尾濃機業取調報告書』

◆ 幕末期の佐織織生産地 『水野家文書』

津嶋・古川・青塚・宇治 (津島市)

見越・根高・諏訪・小津・勝幡・河田・

諸桑・草平新田・湊高新田・佐折 (愛西市)

森山・木田・蜂須賀 (あま市)

新居屋の記載はなし 『特別展 佐織織』

# 説明 ちなみに明治以降の尾張木綿



佐織縞

46 文久元年縞帳(津島市)

- ◆ 佐織縞の国産化  
 農家の副業 →「尾張ブランド」  
 明治の初め尾張藩の国産化を  
 出願し、認可されることとなった。  
 佐織縞元締 水野 長八  
 米之座 水野邸に『仮会所』  
 世話方 →「津島組」「木田組」  
 戎屋新八ほか7名(津嶋)立田屋  
 重助(見越)  
 … 世話方『水野家文書』より

- 一 佐織縞織元身薄之者供ハ、会所江申出次第元手金年二  
 四分利位二而貸渡、連々盛大ニ為織立候様仕度事  
 『津島村国産御用掛より勘定奉行宛伺書』

回答③「 」蛭間は野蒜から。

- ( )塚・・身分の高い人のお墓
- ( )・・「神明社」「津島神社」「熱田神宮」
- ( 兎)・川が合流する「河太」
- ( )・・「川を守る」
- ( )・城之越・・津島御殿
- ( )・・津島麩の店
- ( 町)・・「池之堂」宝泉寺

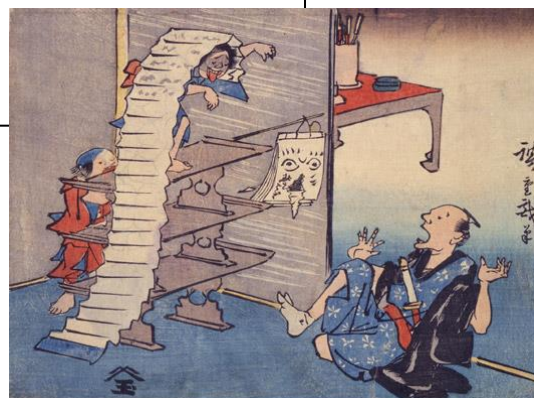


問④ 津島のまちがどのように出来たかを書いた本の名前は『藤嶋私記』である。○か×か。

## 回答④ 答えは「」 津島のまちの物語は『浪合記』

『浪合記』は宝永六年に高須藩で天野信景が見つけた、筆写した事になっています。

『尾張』江戸時代の旅行ガイドブック。西枇杷島の野口道直、岡田啓、さし絵は小田切春江の作。様々な『』がつけられました。



問⑤ 津島には寺子屋（江戸時代の学校）がなかった。○か×か。

答⑤ 「 」 津島には43の寺子屋がありました。



## ☆寺子屋への入門

「寺入」「寺上」「入門」「入学」  
「登山（とうざん）」

## ☆子どもの寺入り

決められた年令があるわけではなく、  
通常は7・8歳（遅くても9歳）になった子  
が初午の日（旧暦の春先：現在の2月）  
に弟子入りするのが習慣となっていた。

## ☆寺入り当日

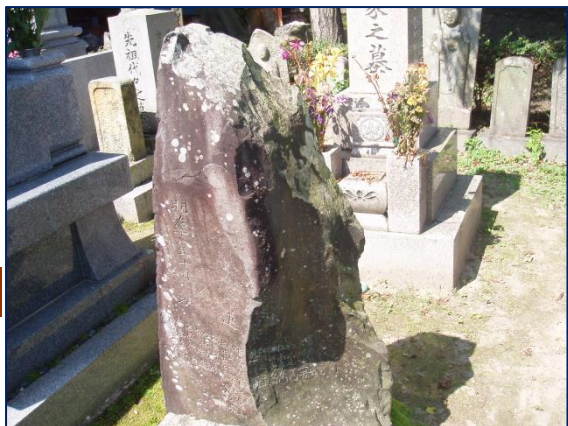
「束修」「扇料」（入門料） 銭・農産物☆

☆寺子・親 「羽織・袴」

「礼装」して師匠宅を訪れる。



# 説明 ちなみに津島の寺子屋は



蛭間町大徳寺水野先生墓

明治18年8月 有志連中

水野多蔵手習部屋。横井半兵衛・石原半四郎・松永要蔵はじめ22名の門人名。



今市場町「魯堂橋本先生碑」

今市場町弘浄寺に、明治41年10月門人之建の筆塚が残されていた。元治期～明治40年に渡って書道を中心。身分は僧侶となっている。学制が布かれてからは、学校に登校する前の早朝に手習いを教えていた。門人百人。

問⑥ 津島で一番古い小学校は南小。  
○か×か。